

4 保存期慢性腎不全に対する大黄方剤の血清尿素窒素 (BUN) 低下作用

川田 一也 (水原郷病院
内科)

慢性腎不全の進行を抑制し、透析導入遅延効果がある薬剤として、経口吸着剤 AST-120 などとともに、多数の漢方方剤も報告されている。

今回、慢性糸球体腎炎による保存期慢性腎不全 5 例に、大黄末及び大黄甘草湯を投与し、血清尿素窒素 (BUN) の低下作用を検討した。

- (1) 5 例とも、BUN および BUN : 血清クレアチニン比は低下傾向を示した。
- (2) 大黄方剤による血清尿素窒素 (BUN) の低下の臨床的意義、特に透析導入遅延効果については、「証」及び「判定基準」も含め、更に詳細な検討が必要である。

5 新潟県における薬草について (1)

須永 隆夫 (木戸クリニック)

【緒言】新潟県の各地に、その地域で使われてきた薬草が多い。民間薬や漢方薬の材料として使われてきた。今回、黄連、おけら、芍薬、当帰、トリカブト、ヨモギなどの現状のごく一部を調査したので報告する。

【方法、結果】生産者、保存会、薬用植物園のメンバーより聞き取り、現地見学とした。又、県の生薬生産担当部よりの資料を参考とした。昨年 の要旨集の表紙は五頭黄連である。野生種も各地にみられ、五頭薬用植物園には数種がある。佐渡では、江戸時代に特産品の記録がある。おけらは佐渡おけらとして、以前には栽培されていたが現在では野生化しているものと一部保存されているものがある。一部は奈良県と北海道、津南で栽培されている。ヨモギから造るもぐさは上越地方が全国一の生産量である。

【まとめ、考察】新潟県における生薬のいくつかの現状を追った。佐渡おけらのような稀少種もある。生薬に親しみながら、その保存と国内生産にむけても関心をむけられたら思う。

第43回新潟画像医学研究会

日時 平成12年6月3日(土)
午後2時～5時
会場 新潟ユニゾンプラザ

I. 一般演題

1 胸部大動脈瘤に対するステントグラフトの経験——開胸式と経カテーテル式——

榛沢 和彦・諸 久永
北村 昌也・名村 理 (新潟大学)
斉藤 正幸・林 純一 (第二外科)

2 マンモグラフィー用コンピュータ支援診断 (CAD) システムの試用経験

小田 純一・椎名 眞 (県立がんセンター)
植松 孝悦・小林 晋一 (新潟病院放射線科)

- 1) デジタルマンモグラフィー (FCR-MMG) の画像データを用いたコンピュータ支援診断 (CAD) の試用経験について報告した。
- 2) 今回試用した CAD システムはデジタルデータをそのまま利用している点が特徴であり、処理速度が速く日常診療への応用も十分可能なレベルだった。
- 3) 当院の乳癌症例 77 例 (306 画像) を用いた診断能についての検討では、腫瘍影の検出率が 65%、石灰化巣の検出率が 72% と他施設の報告に比し不良であった。
- 4) しかし、石灰化巣の検出については現在でも十分有用であり、今後プログラムを改善することによって外来診療や、検診への導入が期待されるシステムであると考えられた。